

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)
バイオインフォマティクスとシステムズバイオロジーの国際連携教育研究プログラム
ワークショップ参加レポート

Name: 財部 将孝
Title: IBSB2009 参加レポート
<p>Workshop report : 私は今回ボストン大学にて開催された、第 9 回 International Workshop on Bioinformatics and Systems Biology (IBSB)に参加し口頭発表を行ってきました。このワークショップは 2009 年 7 月 27 日から 29 日の 3 日間にわたり、ボストン大学やベルリン大学、東大、京大を中心に主にバイオインフォマティクスにかかわる研究室に属する学生や若手研究者の発表と交流の場として開催されました。今回のワークショップでは主催のボストン大学の先生方の発案で口頭発表時の質疑応答の際に、質問者も自己紹介をしてから発言をするというルールが設けられ、会議後にも発表者と質問者達の間での意見交換などが促されました。また一日の会議が終了した後は、ボストン湾のクルーズやバーベキュー等のイベントも用意されており研究以外にも各国、各大学の研究者達との交流の機会が設けられていました。このような環境、雰囲気の中で行われた会議はどの発表にも質問や意見が多く、発表者だけでなく他の参加者も加わっての活発な議論や意見交換が行われることもありました。</p> <p>私は薬物の相互作用についての研究内容を 20 分ほどの時間を使って発表し、多くの方に興味持って頂きました。いくつかの質問やコメントを頂き、私の英語による会話の力不足により自分の意見を上手く表現することができませんでしたが、座長をしてくださった先生も含め参加者の方達が理解しようとしてくださり、その結果貴重な意見交換ができました。また会議以外では会場に用意された飲み物や簡単な食事をとりながら他の研究室の研究者達と話をする機会が多く持てました。そこでは研究内容についての話だけでなく、お互いに異なる国や大学、研究室で過ごしている研生活や考え方等について興味深い話を聞くことができ、研究に対する高い意識や自分にはなかった考え方を知ることができました。今回のワークショップに参加したことで、アメリカ特にボストンという大学が多く集まる町で過ごし、多くの研究者達と交流する機会を持つという貴重な経験が得られました。多くの研究者の方々と知り合うことができ、活発な議論から感じた研究に対する意識の高さなど多くの刺激を受け、この経験を今後の私の研生活に生かしていきたいと思えます。</p>